

第三者評価結果

事業所名：新葉山はばたき

A-1 利用者の尊重と権利擁護

A-1-(1) 自己決定の尊重	第三者評価結果
<p>【A1】 A-1-(1)-① 利用者の自己決定を尊重した個別支援と取組を行っている。</p>	a
<p><コメント> 利用者のニーズに基づいて、個別支援計画を策定している。職員間で情報の共有を行い、取り組みの内容や支援の方法を確認している。一日のスケジュール（作業や学習、余暇活動）は、利用者の意思を尊重しながら決定している。利用者の持っている力（ストレングス）や、障害の特性に配慮し、写真やイラストカードを活用して、次に何をしたらよいか、主体的に行動できるよう工夫している。言葉での意思表示が難しい利用者には、PECSを用いてコミュニケーションをとりながら、自己決定してもらっている。利用者の会「ひまわり会」では、利用者が職員と話し合い、誕生会のカード作り、給食のリクエスト、今月の目標などを決めている。</p>	
A-1-(2) 権利擁護	第三者評価結果
<p>【A2】 A-1-(2)-① 利用者の権利擁護に関する取組が徹底されている。</p>	a
<p><コメント> 権利擁護については、業務マニュアルを整備し、法人内研修や会議などで職員の周知を図っている。身体拘束が必要な利用者には、事前に家族と同意書を取り交わしている。利用者が興奮して自分の頭を叩く時は、利用者の腕を職員が抑えることがあることを家族に事前に説明して同意を得ている。また、身体拘束を行った時は、時間や状況を記録して、職員に周知している。利用者の自治会「ひまわり委員会」では、毎月、職員の目標（例：利用者の話は忙しくてもきちんと聞く）と、利用者の目標（例：手洗いうがいの励行）を決めて、提供する支援が一方通行にならないよう配慮している。</p>	

A-2 生活支援

A-2-(1) 支援の基本	第三者評価結果
<p>【A3】 A-2-(1)-① 利用者の自律・自立生活のための支援を行っている。</p>	a
<p>「サービス等利用計画」に基づいて、利用者や家族のニーズに沿った個別支援計画を作成している。利用者の心身の状況や希望する生活を把握して、利用者ができることを増やして、自信につながるよう支援している。職員が言葉で褒めたり、またトークンシステム（代用貨幣）でポイントを増やし、貯まったポイントで散歩に出かけるなど、成功体験を増やして、自律や自立に向けた支援を行っている。1つの工程ができれば次の工程を行う構造化で、安全に注意して見守りながら、できることを積み上げている。利用者には、身の回りでできることは自分で行ってもらう。また、自分自身でお金の管理を行っている利用者もいる。</p>	
<p>【A4】 A-2-(1)-② 利用者の心身の状況に応じたコミュニケーション手段の確保と必要な支援を行っている。</p>	a
<p><コメント> 会話がなんとかできる利用者、発声はあるが単語だけの利用者、手話を使う利用者など、多くの利用者は何らかのコミュニケーション手段を活用している。職員は、PECSの絵カードを使ったコミュニケーションに対応できるよう、専門教育を受けている。現在、PECSで利用者2～3名がコミュニケーションをとっている。また、写真や文字、イラストを用いたカードや目印になるカードを、一人ひとりに合わせて使用している。意思疎通が困難な利用者には、連絡帳や朝夕の家族とのやり取り、表情や態度などを読み取るようにして支援している。</p>	

【A5】 A-2-(1)-③ 利用者の意思を尊重する支援としての相談等を適切に行っている。	a
--	---

<コメント>

個別支援計画の作成のため、家族や利用者とは年2回、面談する機会を設けている。また、利用者や家族からの相談には、随時対応している。職員は利用者や家族にできるだけ声掛けを行い、気軽に相談できる雰囲気を作るように努めている。事業所内に相談室を用意し、プライバシーを確保しながら安心して相談ができる空間を設けている。相談内容は面談記録に残し、職員に回覧して、内容を共有している。意思表示が困難な利用者には、家族に話を聞いたり、表情や動作、視線などから、本人の意思を尊重できるよう支援している。家族からは連絡帳や電話、送迎時に相談を受けることが多く、内容によって、職員会議で対応を検討している。

【A6】 A-2-(1)-④ 個別支援計画にもとづく日中活動と利用支援等を行っている。	b
--	---

<コメント>

アセスメントにより、何ができて何を支援していくのかを、個別支援計画に記載している。日中活動は、利用者の心身の状況に合わせて、工程を分割して作業を提供している。ミックスペーパーの回収袋の作成では、折りや糊付けなどの段階に分けて、利用者ができる工程を担ってもらっている。その他、コーヒー袋のシール貼り、ひじきのゴミ取り、機織り（コースターやショール作り）、缶つぶし（資源回収）などの作業を行っている。余暇活動では、タブレットでアニメを鑑賞したり、パズルやぬり絵、スポーツでは集団で行うレクリエーションとしてポッチャを導入している。日中活動や余暇活動は、本人の希望や家族への聞き取りをもとに、無理のないよう提供している。歩行訓練として届け物を兼ねての歩行、踏台の昇降（階段の上り下り）、動画を見ながらのストレッチ、高いところにボールを入れるなど、一人ひとりの日課を決めている。

【A7】 利用者の障害の状況に応じた適切な支援を行っている。	a
--------------------------------	---

<コメント>

知的障害（自閉症、ダウン症）や精神障害、重複障害など、様々な障害を持っている利用者が事業所を利用している。障害の特性に応じ、適切な支援を行うために、職員は法人研修や外部研修を通して専門知識を習得し、職員間で共有して支援の向上に努めている。自閉傾向のある利用者には、コミュニケーション方法にPECSを使用し、構造化による活動支援を行っている。利用者の不適応行動（介護拒否・暴言・大声・暴力・パニック・強いこだわりなど）には、行動記録を取ったうえで分析し、具体的な支援方法を検討している。

A-2-(2) 日常的な生活支援	第三者評価結果
------------------	---------

【A8】 A-2-(2)-① 個別支援計画にもとづく日常的な生活支援を行っている。	a
--	---

<コメント>

昼食は業者に委託し、事業所内の厨房で調理している。その場で調理しているので、温かいものは温かく、冷たいものは冷たい状態で昼食を提供している。利用者の状態に応じ、食形態（普通食、刻み食、ペースト食など）を選ぶことができる。テーブルの下に踏台を置き、利用者が安定した姿勢で食事が取れるよう工夫している。配膳のトレーには、個別のカードを置き、禁食やアレルギー除去食、代替え食、自助具、箸、スプーンなどの種類を記載し、職員は毎回内容を確認して、食事を提供している。排泄や移動などは介助マニュアルに沿って支援している。介助マニュアルは毎年見直し、必要に応じて変更している。「ひまわり会」であがったリクエストメニューは献立に反映している。リクエストメニューは、献立表に☆印を付け、利用者が楽しみにしている。

A-2-(3) 生活環境	第三者評価結果
--------------	---------

【A9】 A-2-(3)-① 利用者の快適性と安心・安全に配慮した生活環境が確保されている。	a
---	---

<コメント>

利用者の作業室は、必要に応じて、パーテーションを使用して環境設定を行っている。利用者の相性に配慮して活動する部屋を決め、作業や余暇活動に集中できるスペースをパーテーションで区切って確保している。各活動場所は、その都度清掃、消毒を行い、清潔を保つよう努めている。業務マニュアルに沿って、朝夕2回、手すりなどの清掃を職員が行っている。トイレや洗面所の清掃は、業者に委託している。また、利用者がパニックになったり、体調不良になった場合に備え、静養できるスペースを確保している。廊下の幅が広く、4人掛けのソファを置き、利用者がいつでも自由に休んだり談話をしたりできる空間を作っている。

A-2-(4) 機能訓練・生活訓練	第三者評価結果
【A10】 A-2-(4)-① 利用者の心身の状況に応じた機能訓練・生活訓練を行っている。	a
<コメント>	
理学療法士や作業療法士は配置していないが、かかりつけ医の助言を受けて、機能訓練や生活訓練のメニューを作成している。また、自宅からリハビリに通っている利用者は、指導書を家族から見せてもらい、事業所でも機能訓練を職員が行っている。身体機能の低下が見られる利用者には、日中活動の中で、階段昇降など、身体を動かす機会を設け、身体機能の維持に取り組んでいる。	
A-2-(5) 健康管理・医療的な支援	第三者評価結果
【A11】 A-2-(5)-① 利用者の健康状態の把握と体調変化時の迅速な対応等を適切に行っている。	a
<コメント>	
家族との連絡帳を通して、利用者の健康状態の把握に努めている。利用者は、家庭や朝の作業前、午後、送迎時などに検温を行っている。直接通ってくる利用者は、玄関で視診と検温を行い、チェック表に記録している。日中の様子は、連絡帳で家族やグループホームに知らせている。また、看護師が利用者の健康状態の把握を行っている。一定の年齢を超えた利用者やダウン症の利用者には、「高齢障害行動チェック」で、行動面のチェックを行っている。AEDIによる緊急対応について、職員は定期的に研修を受けている。	
【A12】 A-2-(5)-② 医療的な支援が適切な手順と安全管理体制のもとに提供されている。	b
<コメント>	
年1回、希望者を対象にして、健康診断やインフルエンザの予防接種を行っている。健康診断の結果で、問題のある利用者については、看護師が家族に助言を行っている。受診が必要な場合は、障害者を受け入れてくれる病院を紹介したり、専門機関につなげたりしている。薬は施錠できる書庫で保管し、看護師が管理している。投薬は複数の職員が確認を行い、看護師の目の前で飲んでもらっている。	
A-2-(6) 社会参加、学習支援	第三者評価結果
【A13】 A-2-(6)-① 利用者の希望と意向を尊重した社会参加や学習のための支援を行っている。	b
<コメント>	
町から委託されているミックスペーパー分別袋の作成を行い、地域のスーパーや町内会に納品している。また、依頼を受けた家庭や店舗への古紙回収の活動や、町内の漁師からひじきのゴミ取り作業と袋詰めなどを受注し作業を行っている。その他、缶つぶしや織物（コースターやショール作り）、革細工などを行い、地域の催しなどで販売している。学習支援は、利用者や家族から希望があった場合、学習教材を用いて学べる環境を整えている。特別支援学校を卒業して、ここに通う方も多く、読み書きや計算などを引き続き勉強したいという利用者や家族もいる。コロナ禍前は、民生委員・児童委員の方が機織りのボランティアに来たり、外での食事会、旅行なども行っている。	
A-2-(7) 地域生活への移行と地域生活の支援	第三者評価結果
【A14】 A-2-(7)-① 利用者の希望と意向を尊重した地域生活への移行や地域生活のための支援を行っている。	a
<コメント>	
利用者は、自宅や障害者グループホームで、地域生活を送っている。日中は事業所に通い、それぞれの活動を利用者の特性に応じて行っている。将来の生活のあり方に対する本人や家族の意向は、面談などを通して確認している。在宅からグループホームに移行を希望する方には、関係機関と連携を図り、情報を提供している。また、グループホームの短期入所を利用する機会を提供している。一人暮らしを希望する方についても、情報提供や関係機関との連携を図っている。	

A-2-(8) 家族等との連携・交流と家族支援	第三者評価結果
【A15】 A-2-(8)-① 利用者の家族等との連携・交流と家族支援を行っている。	a
<p>家族との連携や交流は、利用者の意向を確認して対応している。事業所での様子や支援状況は、連絡帳や電話、送迎時に行っている。利用者本人や家族からの相談は、随時受け付けている。家族の相談は、「親が高齢になり、障害を持った子どもの将来が心配！」が多いが、相談内容によっては、地域の関係機関と連携して、対応している。</p>	

A-3 発達支援

A-3-(1) 発達支援	第三者評価結果
【A16】 A-3-(1)-① 子どもの障害の状況や発達過程等に応じた発達支援を行っている。	
<p><コメント></p> <p>障害者の生活介護事業所のため、評価外とする。</p>	

A-4 就労支援

A-4-(1) 就労支援	第三者評価結果
【A17】 A-4-(1)-① 利用者の働く力や可能性を尊重した就労支援を行っている。	
<p><コメント></p> <p>障害者の生活介護事業所のため、評価外とする。</p>	
【A18】 A-4-(1)-② 利用者に応じて適切な仕事内容等となるような取組と配慮を行っている。	
<p><コメント></p> <p>障害者の生活介護事業所のため、評価外とする。</p>	
【A19】 A-4-(1)-③ 職場開拓と就職活動の支援、定着支援等の取組や工夫を行っている。	
<p><コメント></p> <p>障害者の生活介護事業所のため、評価外とする。</p>	